

令和6年度

企業会計決算審査意見書

令和7年5月

香美町監査委員

決算審査意見書

令和7年5月30日

香美町長 浜上 勇人 様

香美町監査委員 岡本和彦
同 森浦 繁

地方公営企業法第30条第2項の規定により、当職の審査に付された令和6年度の企業会計4決算については、それぞれの決算書、関係諸帳簿及び証拠書類等の審査を実施した。

その結果は次のとおりである。

1 審査の期間

令和7年5月29日（木）

2 審査の対象

- (1) 令和6年度香美町公立香住病院事業企業会計決算
- (2) 令和6年度香美町水道事業企業会計決算
- (3) 令和6年度香美町下水道事業企業会計決算
- (4) 令和6年度香美町国民宿舎事業企業会計決算

3 審査の方法

企業会計決算審査にあたっては、管理者から提出された決算書に基づき、諸帳簿及び証拠書類を照合し、疑問点等について、それぞれの所属長及び担当職員から説明を受け、審査を実施した。

4 審査の結果

関係諸帳簿は、関係法令に基づいて作成され、令和7年3月31日現在の財政状況及び同日をもって終了した会計年度の収支状況を適正に表しており、本決算は適合と認める。

香美町公立香住病院事業企業会計

＜決算内容の分析＞

損益計算書を要約して前年度と比較すれば、次表のとおりである。

(第1表)

損 益 計 算 書

(単位:円、%)

項 目	令和6年度	令和5年度	比較増減	増 減 率
医業収益(A)	896,966,450	900,000,019	△3,033,569	△0.3
医業費用(B)	1,184,699,087	1,104,706,875	79,992,212	7.2
うち減価償却費	123,302,692	71,597,506	51,705,186	72.2
医業損益(C) (A)-(B)	△287,732,637	△204,706,856	△83,025,781	—
医業外収益(D)	270,129,620	188,883,253	81,246,367	43.0
うち一般会計繰入金	255,682,000	170,903,000	84,779,000	49.6
医業外費用(E)	48,183,420	44,018,776	4,164,644	9.5
うち企業債利息	9,802,655	6,139,017	3,663,683	59.7
経常損益(F) (C)+(D)-(E)	△65,786,437	△59,842,379	△5,944,058	—
減価償却費を除く経常利益	57,516,255	11,755,127	45,761,128	389.3
さらに一般会計繰入金を除く経常利益	△198,165,745	△159,147,873	△39,017,872	—
特別利益(G)	0	0	0	—
特別損失(H)	3,755,870	2,500,368	1,255,502	50.2
(病院事業)当年度純損益 (I) (F)+(G)-(H)	△69,542,307	△62,342,747	△7,199,560	—
(介護老人保健施設) 当年度純損益 (J)	△8,342,894	24,902,468	△33,245,362	—
(訪問看護ステーション) 当年度純損益 (K)	272,258	△2,025,031	2,297,289	—
(居宅介護支援事業) 当年度純損益 (L)	△1,620,775	△1,721,013	100,238	—
当年度純損益 (M) (I)+(J)+(K)+(L)	△79,233,718	△41,186,323	△38,047,395	—

(1) 収益的収支について（千円未満を四捨五入したため、差額及び合計が計算と異なる場合がある。）

○ 病 院

当年度の収益的収支の状況は、損益計算書（第1表）のとおりである。医業収益は、前年度と比べ入院患者は、0.3人/日減の30.4人/日となり、入院収益は9,317千円（△2.7%）の減となった。外来患者については、0.5人/日増の173.6人/日となり、外来収益は3,434千円（0.8%）の増となった。医業収益全体では896,966千円となり、前年度と比べ3,034千円（△0.3%）の減となった。

一方、医業費用は、給与改定等により給与費44,361千円の増、減価償却費51,705千円の増などにより、1,184,699千円となり、前年度と比べ79,992千円（7.2%）の増となった。

また、医業外損益では、不採算性部門運営費補助金などの増による一般会計繰入金84,779千円の増、特別損益の△3,756千円を加えると当年度純損益は69,542千円の赤字となり、前年度と比較すると7,200千円赤字が増加した。

○ 介護老人保健施設

介護老人保健施設「ゆうすげ」の入所者数は、長期短期合わせて年間延べ人数で14,689人（△3.4%、1日平均40.2人、平均利用率83.8%）となった。事業収益は184,686千円で、前年度と比べ1,098千円（0.6%）の増となり、事業費用は249,415千円となり、前年度と比べ29,209千円（13.3%）の増で、結果、事業損益は△64,729千円となった。

その他、事業外損益56,704千円、特別損益△318千円を加えると当年度純損益は8,343千円の赤字となり、前年度と比較すると33,245千円収支が悪化した。

○ 訪問看護ステーション

訪問看護ステーションは、年間延べ利用人数2,772人で前年度比474人（△14.6%）の減となった。事業収益19,628千円に対し事業費用は34,373千円で、事業損益は△14,745千円となった。

その他、事業外損益15,000千円、特別損益17千円を加えると当年度純損益は、272千円の黒字となり、前年度と比較すると2,297千円

収支が好転した。

○ 居宅介護支援事業

居宅介護支援事業所「もくれん」は、年間延べ461人の利用者数で、前年度比82人（21.6%）の増となった。事業収益4,427千円に対し事業費用6,070千円で、事業損益は△1,643千円となった。

その他、事業外損益△36千円、特別損益58千円を加えると当年度純損益は、1,621千円の赤字となったが、前年度と比較して100千円収支が好転した。

(2) 未処理剰余金等について

前年度までの繰越欠損金に当年度の純利益を加えると、令和6年度末未処理欠損金（累積赤字額）は3,122,935千円（第2表）となった。

(第2表) 令和6年度末 利益金及び不良債務等の推移

(単位:円)

年 度	当年度末 利益(欠損)金			当年度純利益 (純損失)	年 度 末	
	減債 積立 金	利益 積立 金	未処理剰余金 (欠損金)		不良債務＝ (流動負債－ 流動資産)	左のうち 一時借入金
2	0	0	△2,882,282,572	△93,051,979	0	80,000,000
3	0	0	△2,977,244,443	△94,961,871	0	112,000,000
4	0	0	△3,002,514,812	△25,270,369	0	100,000,000
5	0	0	△3,043,701,135	△41,186,323	0	100,000,000
6	0	0	△3,122,934,853	△79,233,718	0	100,000,000

※不良債務については会計基準改正により下記により算出

①翌年度償還の企業債・他会計からの借入金（建設改良）については算入対象から除外

②負債性引当金のうち、通常1年以内に使用される見込みのもの（修繕引当金、賞与引当金等）については3年間の算入猶予の経過措置により除外

※不良債務の無い場合は0と表示する。

(3) 患者の動向について

当年度の年度別患者数（第3表）は、入院11,110人、外来42,196人で、前年度と比べて入院患者数は、143人（△1.3%）の減、外来患者数については124人（0.3%）の増となっている。

なお、診療収入については、第4表のとおりとなっている。

(第3表) 年度別患者数

(単位:円、%)

年度	入院患者数	増減率	外来患者数	増減率	計	増減率
2	10,796	4.4	35,914	△9.3	46,710	△6.4
3	12,050	11.6	38,265	6.5	50,315	7.7
4	11,357	△5.8	46,019	20.3	57,376	14.0
5	11,253	△0.9	42,072	△8.6	53,325	△7.1
6	11,110	△1.3	42,196	0.3	53,306	0.0

(第4表) 診療収入及び患者数の推移

(単位:円、人、%)

項目	入院	増減率	外来	増減率	合計	増減率			
診療収入	2	291,912,348	4.4	358,075,455	△4.8	649,987,803	△0.9		
	3	338,149,498	15.8	382,350,361	6.8	720,499,859	10.8		
	4	334,625,305	△1.0	457,992,757	19.8	792,618,062	10.0		
	5	341,212,462	2.0	457,642,732	△0.1	798,855,194	0.8		
	6	331,895,055	△2.7	461,076,746	0.8	792,971,801	△0.7		
患者一人当たり収入	2	27,039	0.0	9,970	4.9	/			
	3	28,062	3.8	9,992	0.2				
	4	29,464	5.0	9,952	△0.4				
	5	30,322	2.9	10,878	9.3				
	6	29,874	△1.5	10,927	0.5				
一日平均患者数	2	29.6	4.6	147.8	△10.0			/	
	3	33.0	11.5	158.1	7.0				
	4	31.1	△5.8	189.4	19.8				
	5	30.7	△1.3	173.1	△8.6				
	6	30.4	△1.0	173.6	0.3				

(4) 資本的収支について

資本的収支の状況は税込みで、第5表のとおりとなっており、収入は企業債、一般会計からの出資金等136,135千円で、支出は建設改良費、企業債償還金等195,064千円で、差し引くと収入不足額が58,929千円となっている。不足額については、当年度分損益勘定留保資金58,929千円で補てんされている。

(第5表)

資本的収支の推移

(単位:円)

項 目		3年度	4年度	5年度	6年度
収入	合 計	158,424,000	459,714,000	519,505,901	136,135,000
	うち				
	企業債	116,600,000	430,100,000	455,100,000	72,900,000
	出資金	39,822,000	26,014,000	57,194,000	59,215,000
支出	合 計	205,514,284	494,343,278	583,149,767	195,063,569
	うち				
	建設改良費	149,891,929	438,866,089	478,893,283	89,066,465
	企業債償還金	52,742,355	41,477,189	91,256,484	97,517,104
	他借入償還金	0	0	0	0
	投 資	2,880,000	14,000,000	13,000,000	8,480,000
差引不足額(残)		47,090,284	34,629,278	63,643,866	58,928,569
単年度減価償却費		78,601,244	69,321,177	80,887,708	130,199,090
主たる建設改良		リハビリ棟等撤去工事 29,648,300 本館改修工事 9,900,000 内視鏡スコープ一式、レポートシステム 43,450,000	東館新築工事 372,798,462 エレベーター防火スクリーン取付工事 16,137,000 医事会計処理システム 12,764,400	東館新築工事 136,049,438 電子カルテシステム 99,088,000 人工透析装置 71,500,000	外構整備工事 23,753,400 総合診療科改修工事 14,100,900 臨床化学自動分析装置 21,780,000

(5) 資金繰りの推移

資金繰りの推移を一時借入金、利息及び預金残高等で比較すれば、第6表のとおりとなっている。一時借入金の年度末残高は、病院事業75,000千円、介護老人保健施設20,000千円、訪問看護ステーション5,000千円となり、支払利息110千円が発生した。

(第6表) 一時借入金、利息及び預金等の推移

(単位:円、%)

年度	一時借入金 年度末残高	増減率	一時借入金 支払利息	増減率	現金預金 年度末残高	増減率	預金利 息収入	増減率
2	80,000,000	0.0	2,941	△76.5	71,307,545	△6.5	1,083	55.8
3	112,000,000	40.0	18,164	517.6	68,450,834	△4.0	1,081	△0.2
4	100,000,000	△10.7	14,793	△18.6	108,419,121	58.4	1,628	50.6
5	100,000,000	0.0	11,887	△19.6	162,198,068	49.6	1,715	5.3
6	100,000,000	0.0	109,914	824.7	100,004,782	△38.3	84,497	4,826.9

(6) 未収金について

当年度の未収金(第7表)は159,080,930円となっている。この内医業未収金122,893,801円は、ほとんどが2、3月分の健康保険診療報酬であり、社会保険支払基金等から5月までに収入されるべきもので、5月20日時点では117,786,562円が収納されている。

なお、未収金の収入状況は、第7表のとおりである。

(第7表) 令和6年度未収金徴収状況(5月20日現在)

(単位:円)

区分	未収金額	徴収済額	残額	不納欠損額
診療報酬	111,948,857	111,787,135	161,722	
個人窓口負担金	6,790,312	1,991,751	4,798,561	
健康診断他	4,154,632	4,007,676	146,956	
医業未収金 計 (A)	122,893,801	117,786,562	5,107,239	
患者外給食収益	131,320	131,320	0	
販売手数料等	1,807,740	1,726,081	81,659	
医業外未収金 計 (B)	1,939,060	1,857,401	81,659	
その他未収金 (C)	0	0	0	
介護老人保健施設 (D)	30,326,306	18,536,759	11,789,547	
訪問看護ステーション (E)	3,226,443	2,240,673	985,770	
居宅介護支援事業 (F)	695,320	298,580	396,740	
未収金計 (A)+(B)+(C)+(D)+(E)+(F)	159,080,930	140,719,975	18,360,955	

- (7) 不納欠損について
該当なし。

《審査意見》

病院事業において、今後とも常勤医師の招聘及び看護師を含む医療技術者の確保に努められ、住民の要望に応えられたい。

香美町水道事業企業会計

<決算内容の分析>

損益計算書を要約して前年度と比較すれば、次表のとおりである。

(第1表)

損 益 計 算 書

(単位:円、%)

項 目	令和6年度	令和5年度	比較増減	増減率
営業収益	325,697,496	347,464,407	△21,766,911	△6.3
うち水道使用料	304,907,784	310,210,967	△5,303,183	△1.7
営業外収益	179,658,877	156,237,880	23,420,997	15.0
うち一般会計補助金	83,022,734	55,234,253	27,788,481	50.3
特別利益	0	0	0	—
うち過年度損益修正益	0	0	0	—
事業収益合計 (A)	505,356,373	503,702,287	1,654,086	0.3
営業費用	567,827,302	562,641,258	5,186,044	0.9
うち原水及び浄水費	99,456,580	100,427,930	△971,350	△1.0
うち配水及び給水費	68,335,554	78,956,127	△10,620,573	△13.5
うち受託工事費	0	0	0	—
うち総係費	58,195,762	59,137,212	△941,450	△1.6
うち減価償却費	303,534,542	320,200,974	△16,666,432	△5.2
営業外費用	39,327,997	39,954,120	△626,123	△1.6
うち企業債利息	30,960,014	32,268,621	△1,308,607	△4.1
特別損失	135,572	24,692	110,880	449.1
うち過年度損益修正損	135,572	24,692	110,880	449.1
事業費用合計 (B)	607,290,871	602,620,070	4,670,801	0.8
当年度純損益(A)-(B)	△101,934,498	△98,917,783	△3,016,715	—

(1) 収益的収支について（千円未満を四捨五入したため、差額及び合計が計算と異なる場合がある。）

当年度の総収益（第1表）は505,356千円で、これに対する総費用は607,290千円となり、101,934千円の赤字となっている。

営業収益は前年度に比べ21,767千円（△6.3%）の減となっている。内訳は、消火栓関係負担金収益16,043千円（△59.4%）減となっている。

一方、営業費用は、消火栓関係修繕費18,038千円（△30.2%）減、職員給与費4,333千円（△6.3%）減、減価償却費16,666千円（△5.2%）減となったが、国の電気価格等激変緩和対策の終了による動力費6,817千円（22.9%）増、旧矢田橋添架管の除却に伴う資産減耗費34,386千円（877.4%）増により、前年度に比べ5,186千円（0.9%）の増となっている。その結果、営業損益は242,130千円の赤字となり、前年度と比較すると26,953千円赤字が増加している。

営業外収益は、赤字補てんに対する一般会計補助金27,788千円（50.3%）増により、前年度に比べ23,421千円（15.0%）増となり、営業外費用においては企業債利息が1,309千円（△4.1%）減となっている。その結果、営業外損益は140,331千円の黒字となり、前年度と比較すると24,047千円の増となっている。

以上の結果、当年度純損益は101,934千円の赤字となり、前年度と比較すると3,017千円赤字が増加している。

なお、前年度繰越欠損金1,352,471千円に当年度純損失を加えた1,454,405千円が当年度未処理欠損金となった。

(2) 配水量及び有収水量等について

配水量及び有収水量等の推移は、第2表のとおりである。水需要の状況は、昨年度より2.0%減となり、水の需要が減少している。一日最大配水量は11,207m³と前年度と比べ7.2%増となっている。有収率については78.0%で、前年度より3.4ポイント減少している。

(第2表) 配水量及び有収水量等の推移

(単位: m³、%)

項目	令和5年度	増減率	令和6年度	増減率
配水量	2,407,137	△2.7	2,461,145	2.2
有収水量	1,958,559	△3.4	1,919,064	△2.0
一日最大配水量	10,452	△1.0	11,207	7.2
有収率	81.4	△0.5	78.0	△3.4

※有収率の増減率は、対前年度との差し引き数値。

(3) 建設改良工事について

当年度の建設改良工事は、次のとおり実施されました。

○ 建設改良工事

森水系関係工事 (配水管耐震化工事 上計工区)	1件	20,581,000円
森水系関係工事	2件	7,497,600円
長井水系関係工事	1件	3,300,000円
余部水系関係工事	2件	1,910,700円
御崎水系関係工事	1件	17,510,900円
村岡高区水系関係工事 (大笹浄水場緩速攪拌機更新工事 繰越分)	1件	43,516,000円
村岡高区水系関係工事	1件	1,320,000円
村岡中区水系関係工事 (村岡浄水場次亜注入設備更新工事 繰越分)	1件	12,768,800円
村岡中区水系関係工事	2件	12,655,500円
村岡低区水系関係工事	2件	7,102,700円
上射添水系関係工事	4件	7,906,800円
粗岡水系関係工事	1件	7,640,600円
小代水系関係工事 (猪之谷配水池機能移転整備工事 債務負担行為分)	1件	48,468,200円
小代水系関係工事	3件	9,355,500円
その他	5件	17,323,900円
計	28件	218,858,200円

(4) 給水原価と供給単価について

給水原価と供給単価については第3表のとおりになっている。供給単価と給水原価との差は108.52円/m³となっており、供給単価より給水原価のほうが上回っている。

(第3表) 給水原価と供給単価の推移

(単位:円、%)

項目	令和4年度	増減率	令和5年度	増減率	令和6年度	増減率
供給単価 (A)	154.84	9.3	158.39	2.3	158.88	0.3
給水原価 (B)	244.05	3.0	256.83	5.2	267.40	4.1
(A) - (B)	△89.21		△98.44		△108.52	

(5) 未収金について

当年度の未収金は、60,634,393円計上されているが、ほとんどが決算締切り後に収納となる性質のものであり、5月20日時点では第4表のとおりで、41,921,074円が収納されている。

(第4表) 令和6年度未収金徴収状況 (5月20日現在)

(単位:円)

区分	未収金額	徴収済金額	残高	備考
水道使用料	32,158,557	26,095,238	6,063,319	
その他営業収益	14,878,336	14,878,336	0	
その他	13,597,500	947,500	12,650,000	国県補助金
計	60,634,393	41,921,074	18,713,319	

(6) 不納欠損について

該当なし。

(7) 資本的収支について

当年度収入（令和5年度同意済企業債のうち未払相当分10,400千円を除く）は税込みで265,604千円、これに対し支出は433,157千円となっており、不足額の167,553千円は当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額13,762千円、過年度分損益勘定留保資金36,401千円及び当年度分損益勘定留保資金105,690千円で補てんされ、残額11,700千円については、令和6年度同意済企業債の未発行分をもって、翌年度において措置される。

《審査意見》

計画的な施設整備を行い、今後も清浄にして豊富低廉な水の安定供給に努められたい。

香美町下水道事業企業会計

<決算内容の分析>

損益計算書を要約して前年度と比較すれば、次表のとおりである。

(第1表)

損 益 計 算 書

(単位:円、%)

項 目	令和6年度	令和5年度	比較増減	増減率
営業収益	322,935,233	328,652,077	△5,716,844	△1.7
うち下水道使用料	321,846,576	324,922,840	△3,076,264	△0.9
営業外収益	989,812,237	1,181,541,160	△191,728,923	△16.2
うち一般会計補助金	612,198,906	828,151,647	△215,952,741	△26.1
特別利益	21,093	0	21,093	皆増
うち過年度損益修正益	21,093	0	21,093	皆増
事業収益合計 (A)	1,312,768,563	1,510,193,237	△197,424,674	△13.1
営業費用	968,556,122	975,201,399	△6,645,277	△0.7
うち管渠費	58,411,772	53,784,266	4,627,506	8.6
うちポンプ場費	3,464,165	4,274,030	△809,865	△18.9
うち処理場費	188,943,581	188,835,680	107,901	0.1
うち総係費	34,819,642	33,030,581	1,789,061	5.4
うち減価償却費	651,801,752	676,704,960	△24,903,208	△3.7
営業外費用	145,570,359	163,197,732	△17,627,373	△10.8
うち企業債利息	130,057,949	146,594,836	△16,536,887	△11.3
特別損失	304,878	92,096	212,782	231.0
うち過年度損益修正損	304,878	92,096	212,782	231.0
事業費用合計 (B)	1,114,431,359	1,138,491,227	△24,059,868	△2.1
当年度純損益(A)-(B)	198,337,204	371,702,010	△173,364,806	△46.6

(1) 収益的収支について（千円未満を四捨五入したため、差額及び合計が計算と異なる場合がある。）

当年度の総収益（第1表）は、1,312,768千円で、これに対する総費用は1,114,431千円となり、198,337千円の黒字となっている。

営業収益は、下水道使用料321,847千円、その他営業収益1,088千円の322,935千円となっている。

営業費用968,556千円の主なものは、職員6人分の職員給与費37,069千円、動力費63,328千円、施設維持管理等の委託料103,622千円、減価償却費651,802千円となっている。

営業外収益は、一般会計補助金として612,199千円を受け入れたことと、長期前受金戻入327,061千円により、989,812千円となり、営業外費用145,570千円の主なものは、企業債利息130,058千円となっている。

以上の結果、当年度純損益は198,337千円の黒字となったが、前年度と比較すると173,365千円黒字が減少している。

なお、前年度繰越欠損金2,126,661千円に、当年度純利益を加えた1,928,323千円が当年度未処理欠損金となった。

(2) 接続率及び有収水量等について

接続率及び有収水量等の推移は、第2表のとおりである。

接続率は83.6%と向上しているが、接続人口は前年度より2.4%減と減少している。

また、有収水量は前年度と比べ1.1%減となっている。

(第2表) 接続率及び有収水量等の推移

(単位: m³、%)

項目	令和5年度	増減率	令和6年度	増減率
処理区域内人口	15,376	△2.2	14,979	△2.6
接続人口	12,837	△1.5	12,528	△2.4
接続率	83.5	0.5	83.6	0.1
総処理水量	1,473,622	△0.5	1,506,317	2.2
有収水量	1,385,667	△2.0	1,369,757	△1.1
有収率	94.0	△1.5	90.9	△3.1

※接続率、有収率の増減率は、対前年度との差し引き数値。

(3) 建設改良工事について

当年度の建設改良工事は、次のとおり実施されました。

○ 建設改良工事（公共下水道事業）

山手4工区（その2）・山手6工区（その1）汚水管渠布設工事	1件	9,566,700円
香住浄化センター高圧受電設備、空調機等更新工事	4件	11,339,900円
マンホールポンプ機械設備更新工事	1件	2,638,900円
香住浄化センター監視制御装置更新設計、設計支援業務	2件	3,906,100円
下水道統廃合等検討業務	1件	7,700,000円
下水道管路管理システム構築業務（事故繰越分）	1件	5,074,300円
計	10件	40,225,900円

○ 建設改良工事（特定環境保全公共下水道事業）

射添浄化センター高圧受電設備更新工事（繰越分）	1件	3,401,200円
村岡浄化センター機械設備等更新工事	2件	2,411,200円
佐津浄化センター他高圧受電設備更新工事	1件	6,914,600円
マンホールポンプ機械設備更新工事	1件	5,762,900円
下水道管路管理システム構築業務（事故繰越分）	1件	15,112,900円
計	6件	33,602,800円

○ 建設改良工事（農業集落排水事業）

浄化センター機械設備、マンホールポンプ機械設備等更新工事	3件	12,409,100円
下水道管路管理システム構築業務（事故繰越分）	1件	2,367,200円
計	4件	14,776,300円

○ 建設改良工事（漁業集落排水事業）		
鎧浄化センター脱臭ファン更新工事	1件	1,298,000円
下水道管路管理システム構築業務（事故繰越分）	1件	183,700円
計	2件	1,481,700円
○ 建設改良工事（小規模集合排水処理事業）		
作山浄化センター計量ポンプ等更新工事	2件	364,100円
下水道管路管理システム構築業務（事故繰越分）	1件	95,700円
計	3件	459,800円
○ 建設改良工事（個別排水処理事業）		
三川地区小型合併浄化槽設置工事（繰越分）	1件	1,981,100円
○ 建設改良工事（コミュニティプラント事業）		
町内浄化センター機械設備等更新工事	3件	8,879,200円
マンホールポンプ機械設備更新工事	1件	2,549,800円
下水道管路管理システム構築業務（事故繰越分）	1件	1,146,200円
計	5件	12,575,200円
○ 保存工事		
長井北及び長井南浄化センター解体撤去工事（繰越分、現年分）	1件	248,545,000円
町内浄化センター機械設備、マンホールポンプ等修繕工事	7件	18,060,460円
村岡区・小代区・安木処理区マンホール調整工事（82か所）	3件	4,609,000円
計	11件	271,214,460円
合計	42件	376,317,260円

(4) 未収金について

当年度の未収金は、66,522,919円計上されているが、ほとんどが決算締切り後に収納となる性質のものであり、5月20日時点では第3表のとおりで、38,866,492円が収納されている。

(第3表) 令和6年度未収金徴収状況(5月20日現在)

(単位:円)

区 分	未収金額	徴収済金額	残 高	備 考
下水道使用料	32,038,470	28,880,426	3,158,044	
その他営業収益	212,366	212,366	0	
その他	34,272,083	9,773,700	24,498,383	消費税還付金 及び受益者負 担金分担金
計	66,522,919	38,866,492	27,656,427	

(5) 不納欠損について

不納欠損は、下水道受益者負担金分担金において1件 246,000円となっている。

(6) 資本的収支について

当年度収入(令和5年度同意済企業債のうち未払相当分500千円を除く)は税込みで711,781千円、これに対し支出は1,230,886千円となっており、不足額の519,105千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額7,653千円、過年度分損益勘定留保資金34,124千円及び当年度分損益勘定留保資金477,328千円で補てんされている。

《審査意見》

下水道接続率向上に引き続き努力され、快適な生活環境の保全と公共用水域の水質保全を図られたい。

香美町国民宿舎事業企業会計

<決算内容の分析>

損益計算書を要約して前年度と比較すれば、次表のとおりである。

(第1表)

損 益 計 算 書

(単位:円、%)

項 目	令和6年度	令和5年度	比較増減	増減率
営業収益	0	0	0	—
営業外収益	5,936,529	5,971,431	△34,902	△0.6
うち指定管理者納付金	4,363,644	4,363,644	0	0.0
特別利益	0	0	0	—
事業収益合計 (A)	5,936,529	5,971,431	△34,902	△0.6
営業費用	21,458,827	21,165,041	293,786	1.4
うち減価償却費	21,058,076	20,854,852	203,224	1.0
営業外費用	656	6,046	△5,390	△89.1
特別損失	0	200,800	△200,800	皆減
事業費用合計 (B)	21,459,483	21,371,887	87,596	0.4
当年度純損益(A)-(B)	△15,522,954	△15,400,456	△122,498	—

(1) 収益的収支について (千円未満を四捨五入したため、差額及び合計が計算と異なる場合がある。)

当年度の総収益 (第1表) は5,936千円で、これに対する総費用は21,459千円となり、15,523千円の赤字となっている。

営業収益は、指定管理者制度における利用料金制を適用していることから0円となり、営業費用は施設経営費401千円、減価償却費21,058千円の21,459千円となっており同額の赤字となっている。

営業外収益は、指定管理者納付金4,364千円などの5,937千円と

なり、営業外費用は一時借入金利息等の1千円となっている。その結果、営業外損益は5,936千円の黒字となっている。

以上の結果、当年度純損益は15,523千円の赤字となっている。

なお、前年度繰越欠損金15,400千円に、当年度純利益を加えた30,923千円が当年度未処理欠損金となった。

(2) 利用客の状況について

当年度の利用客数（第2表）は、総利用客数は5,116人で、このうち宿泊利用客数は、前年度と比べて725人（27.0%）増の3,412人、食事等利用客数は71人（△4.0%）減の1,704人となっている。

（第2表） 宿泊利用客及び食事等利用客の推移

（単位：人、%）

項目	令和5年度	増減率	令和6年度	増減率
宿泊利用客数	2,687	△11.3	3,412	27.0
食事等利用客数	1,775	22.9	1,704	△4.0
合計	4,462	△0.3	5,116	14.7

(3) 未収金について

当年度の未収金は、400,000円計上されているが、決算締切り後に収納となる性質のものであり、5月20日時点では第4表のとおりで全額が収納されている。

（第4表） 令和6年度未収金徴収状況（5月20日現在）

（単位：円）

区分	未収金額	徴収済金額	残高	備考
指定管理者納付金	400,000	400,000	0	
その他	0	0	0	
計	400,000	400,000	0	

(4) 不納欠損について

該当なし。

(5) 資本的収支について

当年度収入はなく、これに対し支出は指定管理料 3, 3 3 0 千円となっており、不足額の 3, 3 3 0 千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 3 0 3 千円及び当年度分損益勘定留保資金 3, 0 2 7 千円で補てんされている。

《審査意見》

引き続き施設の適正管理に努められたい。